



## あまんきみこ「うんのいい話」のテキスト異同について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-04-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菅野, 菜月 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00008858">https://doi.org/10.32150/00008858</a>

# あまんきみ「うん、いい話」のテキスト異同について

菅野 菜月

## 一 テキストについて

あまんきみ「うん、いい話」のテキスト成立について研究する資料として異同表を作成する。「うん、いい話」のテキストは次の二つが存在する。

**B** あまんきみ「『車のいろは空のいろ』」

ポプラ社 昭和四十三年（一九六八）三月

**C** あまんきみ「『車のいろは空のいろ 白いぼうし』」

ポプラ社 平成十二年（二〇〇〇）四月

### 〔凡例〕

・ 文頭の文字は段落番号を表わす。

・ 段落番号は**C**を基準とした。段落の異同がみられる部分は、

**C**の段落を参考に、関連する文章が記されている前後の段落に併せて付した。

・ **B**『車のいろは空のいろ』について、カギ括弧、括弧で区切られた文章が数行にわたる場合は、括弧内の文章が「一

字分下げ」になっている。

## 二 テキスト異同表

テキスト間での異同については、改稿の変遷をたどるため、三つのテキストを時代順に並べ、**AB**間、**BC**間におけるそれぞれの異同を整理する。

また、テキスト間でのような改稿がなされたのか明らかにするために、異同の箇所については次のように記号を付した。

- |       |                        |
|-------|------------------------|
| (i)   | 漢字平仮名・句読点等の追加、書き換え（傍線） |
| (ii)  | 語句の追加、書き換え             |
| (iii) | 語句の削除                  |
| (iv)  | 段落の追加                  |
| (v)   | 段落の消去                  |
- (○) 白丸      (●) 黒丸  
(-) シック太字      ( ) 空白

（すがのなつき／北海道浦河高等学校）

<p><b>B</b></p> <p>『車のいろは空のいろ』 ポプラ社 昭和四十三年（一九六八）三月</p> <p>「うん、いい話」</p>	<p><b>C</b></p> <p>『車のいろは空のいろ 白いぼうし』ポプラ社 平成十二年（二〇〇〇）四月</p> <p>「うん、いい話」</p>
<p>① ひらいたまどから、しお風がふきぬけていきます。</p>	<p>① ひらいたまどから、しお風がふきぬけていきます。</p>
<p>② いま、松井さんの空いろの車は、海岸にそった道を、南にむかつて走っています。</p>	<p>② いま、松井さんの空いろの車は、海岸にそった道を、南にむかつて走っています。</p>
<p>③ 海は、もうくらく、あずき色にしずんでいます。春もおりちかく、日がくれるのもだいぶおそくなりました。</p>	<p>③ 海は、もうくらく、あずきいろにしずんでいます。春もおりちかく、日がくれるのもだいぶおそくなりました。</p>
<p>④ ちらっと、うでどけいを見ると、七時をすぎております。</p>	<p>④ ちらっと、うでどけいを見ると、七時をすぎています。</p>
<p>⑤ ふと松井さんは、黒くなったでこぼこの岩場で、手をけんめいにふっている人を見つけて、すぐに、ブレーキをふみましました。</p> <p>「たすかった。こんなところに、からの車がおるなんて、まったく、きょうはうんがいい。」</p>	<p>⑤ ふと松井さんは、黒くなったでこぼこの岩場で、手をけんめいにふっている人を見つけて、すぐに、ブレーキをふみましました。</p> <p>「たすかった。こんなところに、からの車がおるなんて、まったく、きょうはうんがいい。」</p>
<p>⑥ 大きなつり道具をかかえて走ってきた男は、こんなことをいいながら、車にのりこんできました。</p>	<p>⑥ 大きなつり道具をかかえて走ってきた男は、こんなことをいいながら、車にのりこんできました。</p>

<p>「とおいバスの停留所まで、ひよこひよこ歩かねばならんと うんざりしていたところですよ。なにしろ、さかなをいれ ているこのびくがおもたいですからね。」 「いや、こちらこそ、うんが、いいですよ。」</p>	<p>「とおいバスの停留所まで、ひよこひよこ歩かねばならんと うんざりしていたところですよ。なにしろ、さかなをいれ ているこの<b>びく</b>がおもたいですからね。」 「いや、こちらこそ、うんが、いいですよ。」</p>
<p>⑦ 松井さんのほうも、うまくお客がひろえたので、こう、き げんよくこたえました。</p>	<p>⑦ 松井さんのほうも、うまくお客がひろえたので、<span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">きげ</span> んよくこたえました。</p>
<p>⑧ 「すぐたくさんつれましたよ。つれるのなんのって、さか なたちがきようそうで、わたしのつり針にくいついてくる みたいなんですから——」</p>	<p>⑧ 「すぐたくさんつれましたよ。つれるのなんのって、さか なたちがきようそうで、わたしのつり針にくいついてくるみ たいなんですから——」</p>
<p>⑨ 車が走りだすと、お客は、はずんだ声で話しました。 「つれたなかに、ふしぎなさかながいますね。金いろのす じが一ぼんついているのですが——、それが、びかびかひ かるんですよ。なんなら、あとで見せてあげましょう。い や、ぜひ、見てくださいよ。」</p>	<p>⑨ 車が走りだすと、お客は、はずんだ声ではなしました。 「つれたなかに、ふしぎなさかながいますね。金いろのす じが一ぼんついているのですが——、それが、びかびかひ かるんですよ。なんなら、あとで見せてあげましょう。いや、 ぜひ、見てくださいよ。」</p>
<p>⑩ よつぼどうれしいらしく、お客は、そんなことをなんども 話しました。</p>	<p>⑩ よつぼどうれしいらしく、お客は、そんなことをなんども はなしました。</p>

<p>⑪ 海岸からわかれて、林のなかの道にはいったところ、うしろのせきがしずかになりました。お客が、うとうとねむりはじめたのです。 (つかれがでたのだな。ひえるといけない。)</p>	<p>⑪ 海岸からわかれて、林のなかの道にはいったところ、うしろのせきがしずかになりました。お客が、うとうとねむりはじめたのです。 (つかれがでたのだな。ひえるといけない。)</p>
<p>⑫ 松井さんは、そつとまどをしめてやりました。さかなのはねるような大きな音が、ときどき、うしろでしました。 (なんとげんきなさかなたちだ。)</p>	<p>⑫ 松井さんは、そつとまどをしめてやりました。さかなのはねるような大きな音が、ときどき、うしろでしました。 (なんとげんきなさかなたちだ。)</p>
<p>⑬ 林をでると、白い月が、むこうの山からでていました。</p>	<p>⑬ 林をでると、白い月が、むこうの山からでていました。</p>
<p>⑭ はたけのあいだのほそい道を、二ほんのヘッドライトが、明るくてらしています。</p>	<p>⑭ はたけのあいだのほそい道を、二ほんのヘッドライトが、あかるくてらしています。</p>
<p>⑮ きゆうに、松井さんは顔をつきだすようにしました。目を大きくして、ヘッドライトがてらしている道を、いつしようにけんめいに見つめました。</p>	<p>⑮ <b>と、そのとき、</b>松井さんは顔をつきだすようにしました。目を大きくして、ヘッドライトがてらしている道を、いつしようにけんめいに見つめました。</p>
<p>⑯ なにか、黒くきらきらひかるものが三つ、つ、つ、つう、と、両ほうにわかれたように見えたのです。 (なんだ、ありや?)</p>	<p>⑯ なにか、黒くきらきらひかるものが三つ、つ、つ、つう、と、両<b>が</b>わにわかれたように見えたのです。 (なんだ、ありや?)</p>

<p>①7 スピードをおとしました。</p>	<p>①7 スピードをおとしました。</p>
<p>①8 あごをつきだすようなかつこうで、じいっとみつめながらうんてんしていました。が、 「あつ！」</p>	<p>①8 あごをつきだすようなかつこうで、じいっと<b>まえ</b>を見つめながらうんてんしていました。が、 「あつ！」</p>
<p>①9 ブレーキを、力いっぱいふみました。車は、ゆらつ、と一どきあがつてとまりました。 (さかなだ?)</p>	<p>①9 ブレーキを、力いっぱいふみました。車は、ゆらつとうきあがつてとまりました。 (さかなだ。)</p>
<p>②0 松井さんには、銀いろのほそ長いさかなが、たしかに車のまえに見えたのです。 「どうしたのですか？」</p>	<p>②0 銀いろのほそながいさかなが、たしかに車のまえをよぎつていきました。 「どうしたのですか？」</p>
<p>②1 ねぼけたような、お客の声です。へんじもしないで松井さんは、ライトをけしました。このほうが、まわりがよく見えるからです。</p>	<p>②1 ねぼけたようなお客の<b>声に</b>「へんじもしないで、松井さんは、ライトをけしました。このほうが、<span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">よく見える</span>からです。</p>
<p>②2 つめたいガラスにおでこをくつつけて、そとをじいっと見ました。</p>	<p>②2 つめたいガラスにおでこをくつつけて、そとをじいっと見ました。</p>
<p>②3 すると、はたけのとうもろこしが、根もとからふにやふにやゆれているではありませんか。林までが、ずっとむこうで、根もとからくやくにやくにやゆれているのです。</p>	<p>②3 すると、はたけのとうもろこしが、根もとからふにやふにやゆれていました。<b>そしてそのむこうの林も</b>「根もとからくやくにやくにやゆれていました。」</p>



<p>かえせ かえせ……………」</p>	<p>㊹ まどというまどが、ぜんぶ、すうつとおりました。水が、ひんやりと、風のようにながれこんできました。 「うう。」 といううめき声に、松井さんがぞつとしてふりかえると、びく、についているあみが、こんぶのように長くのびています。するするつと、その先が、まどにむかってほどけました。</p>
<p>㊹ 一れつになつたさかなたちが、あみの中から、ついついついでていきましたのです。そして大きなも色のさかなが、さいごに一びき、ゆうゆうとひれをうごかしてでていったのです。金いろのすじが、一ぼん、そのさかなのはらのところ、きらきらとまぶしいほどひかっています。 「きたよ きたよ きたよ （しゃぶ しゃぶ しゃぶ） きたよ</p>	<p>㊹ <b>あみのなかから</b>一れつになつたさかな<b>が</b>、<b>つ</b>いつい<b>つ</b>いでてい<b>ま</b>りました。そして<b>さいご</b>に大きなも<b>いろ</b>のさかなが、<b>一</b>びき、ゆうゆうとひれをうごかしてでて<b>い</b>ったのです。金いろのすじが、一ぼん、そのさかなのはらの<b>と</b>ころで、きらきらとまぶしいほどひかっています。 「きたよ きたよ きたよ きたよ</p>

<p>③⑥ ゆれていたひとつの小さな火が、ながいことかかって……やつとふたつになりました。</p>	<p>③⑤ たばこをにぎっているお客のゆびも、こまかくふるえています。</p>	<p>③④ ふるえる手で、松井さんがたばこに火をつけたとき、うしろからお客の声がありました。「わたしにも、火をください。」</p>	<p>③③ 月のひかりで、水色にそまったとうもろこしの葉が、さわさわさわ音をたててゆれています。</p>	<p>③② 松井さんは、ふらふらするあたまを、かた手でおさえて、車のそとにできました。</p>	<p>③① 音も、声も、だんだんだんだん小さくなりました。そして、しまいに、なにもかも、きこえなくなってしまったのです。</p>	<p>きたよ きたよ……………」</p>
<p>③⑥ ゆれていたひとつの小さな火が、ながいことかかって……やつとふたつになりました。</p>	<p>③⑤ たばこをにぎっているお客のゆびも、こまかくふるえています。</p>	<p>③④ ふるえる手で、松井さんがたばこに火をつけたとき、うしろからお客の声がありました。「わたしにも、火をください。」</p>	<p>③③ 月のひかりで、水いろにそまったとうもろこしの葉が、さわさわさわ音をたててゆれています。</p>	<p>③② 松井さんは、ふらふらするあたまを、かた手でおさえて、車のそとにできました。</p>	<p>③① 音も、声も、だんだんだんだん小さくなりました。そして、しまいに、なにもかも、きこえなくなってしまったのです。</p>	<p>(しやぶ しやぶ しやぶ) きたよ きたよ きたよ……………」</p>